

佳作

## 言葉はついでついでの重なり

茨城県常総市立岡田小学校六年 武藤 和子

また言い過ぎてしまった。修学旅行のバスの席を友達と決めていた時にきつい言葉が出てしまった。私の悪いクセは思っている事を言い過ぎてしまう事だ。悪気があるわけではないが、言わずにはいられない。

私は今、学校や習っているバドミントンで友人関係があまりうまくいっていない。何となくみんなと違う性格をしているからなんだと思う。似た性格の子もいるけれど、その子はみんなから信頼され、好かれている。最近なぜ好かれられないのかと思い、過去の自分の行動を振り返ってみた。小さい頃から言いたい事ははっきり言ってきた。ケンカになると自分の思っている事を全部言ってケンカを終わらせた。低学年の時はこのはっきりした性格にみんなが頼ってきて、問題が起こると「和子ちゃん、意地悪され

たから一緒に文句言うのに付き合っ」とよく誘われた。友達は困った事があるといつも相談してきたので、私は信頼されていると思いい、その友達を助けることに満足していた。しかし、私に文句を言われた側の人はとても嫌な気持ちになっていたと思う。その子の嫌な気持ちの原因は私であって、相談してきた子ではない。つまり、悪い事をしたのは私になる。そのうわさがどんどん他の関係のない友達にも広がっていった。助けるつもりで言った言葉や間違えていないのに言った言葉によって自分がどんどん悪い立場になる事が多くなり、少し悲しくなる回数が増えていった。

そんな時、おばあちゃんが

「和子は和子でいいんだよ。みんなと同じ人なんていないよ。和子は自我が少しだけみんなより強いけれど、その気持ちが強え運動に生かされるよね。おばあちゃんは強い気持ちを少し分けてもらわなくちゃ！」

と励ましてくれた。私はとっても嬉しくなっていて涙ぐんでしまった。最近、毎日の生活の中で否定される事が多々あり、その度に落ちこんでいたからだ。認められるってすごい事なんだと思った。確かに

私は中々自分以外の人を認められない。これからはよく周りを見て、その人がどう思っているかをよく考えてから行動しなければいけないと気付かされた。

今年の四月に私はスポーツ少年団のバドミントンのキャプテンに任命された。今まではもめているとつい口からきつい言葉が出てしまっていたが、今では団全体の雰囲気が良いなる様に一息ついてから発言するようにしている。コーチに

「キャプテンになってから笑顔がいいね。」

と言われた。言葉ひとつひとつには重さがある。団の中には色々な性格の子がいるので、同じ注意の言葉でも言い方を変えたりして、工夫するようにしている。そうすることにより、お互いの気持ちを傷つけずに済むからだ。おばあちゃんから学んだ「認められる事のすごさ」を後はいにも伝えていけたらいいなと思う。